

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	国 語	科 目	現代文 B	学 年	2	類 型	文系
単位数	3	教科書	新 探求現代文 B （桐原書店）				
副教材	新訂総合国語便覧（第一学習社） 核心漢字（尚文出版） 進研 WINSTEP（Learn-S）						

学習目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学期	随想「自己とは何か」 評論Ⅰ「読む」 小説Ⅰ「山月記」 評論解析A「1 科学と市民」 「2 集落の創造」 「3『もどかしさ』の融合」 「4『可能性』としての貨幣」 詩「天景」「猫」他	・表現活動を通して本文の内容を深く理解する。 ・論理展開を丁寧にたどり他者の言葉を理解する。 ・一見難解な小説の深みのある面白さを味わう。 ・主要な見解をつかむ。 ・対比構造に着目する。 ・具体例の働きをつかむ。 ・見解の根拠をつかむ。 ・表現の特色を理解し自分の表現に役立てる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学期	評論Ⅱ「イスラム感覚」 評論Ⅲ「科学者とは何か」 小説Ⅱ「靴の話」 評論Ⅳ「木を伐る人／植える人」 小説Ⅲ「こころ」	・筆者の見解を正しく読み取り異文化を理解する。 ・専門性の高い文章を虚心に受け入れる。 ・状況、人物、心情などを丁寧に的確にとらえる。 ・小説世界の多様性に触れる。 ・筆者の主張を踏まえ、これからの人間の在り方について考える。 ・長編小説を読み、質、量共にこれまでになかった世界を味わう。 ・小説を通して自分の生き方を探る。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学期	評論Ⅴ「『である』ことと『する』こと」 戯曲「動物たちのバベル」	・「民主主義」「自由」「近代化」など、普遍的なテーマへの理解を深める。 ・日本の近代化の特質とその問題点を論じた内容を、現代の課題として捉え直す。 ・評論読解の方法を習得する。 ・自由な想像力を膨らませる。 ・表現に着目し、見方・考え方を磨き、話し合いを通して思考・判断する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	予習として意味の分からない語句や読めない漢字等を調べておく。学習後は、学習で習得した作品の読み方を他の教材の読解で試す。評論では関連のあるテーマを新聞等で調べ、小説では作者の別作品を読んでもみる。
------	--

評価方法	考査による評価8割、平常の学習活動による評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	国 語	科 目	現代文 B	学 年	2	類 型	理系
単位数	2	教科書	新 探求現代文 B （桐原書店）				
副教材	新訂総合国語便覧（第一学習社） 核心漢字（尚文出版）						

学習目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学期	随想「自己とは何か」 評論Ⅰ「読む」 小説Ⅰ「山月記」 評論解析A「1 科学と市民」 「2 集落の創造」 「3『もどかしさ』の融合」 「4『可能性』としての貨幣」 詩「天景」「猫」他	・表現活動を通して本文の内容を深く理解する。 ・論理展開を丁寧にたどり他者の言葉を理解する。 ・一見難解な小説の深みのある面白さを味わう。 ・主要な見解をつかむ。 ・対比構造に着目する。 ・具体例の働きをつかむ。 ・見解の根拠をつかむ。 ・表現の特色を理解し自分の表現に役立てる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学期	評論Ⅱ「イスラム感覚」 評論Ⅲ「科学者とは何か」 小説Ⅱ「靴の話」 評論Ⅳ「木を伐る人／植える人」 小説Ⅲ「こころ」	・筆者の見解を正しく読み取り異文化を理解する。 ・専門性の高い文章を虚心に受け入れる。 ・状況、人物、心情などを丁寧に的確にとらえる。 ・小説世界の多様性に触れる。 ・筆者の主張を踏まえ、これからの人間の在り方について考える。 ・長編小説を読み、質、量共にこれまでになかった世界を味わう。 ・小説を通して自分の生き方を探る。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学期	評論Ⅴ「『である』ことと『する』こと」 戯曲「動物たちのバベル」	・「民主主義」「自由」「近代化」など、普遍的なテーマへの理解を深める。 ・日本の近代化の特質とその問題点を論じた内容を、現代の課題として捉え直す。 ・評論読解の方法を習得する。 ・自由な想像力を膨らませる。 ・表現に着目し、見方・考え方を磨き、話し合いを通して思考・判断する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	予習として意味の分からない語句や読めない漢字等を調べておく。学習後は、学習で習得した作品の読み方を他の教材の読解で試す。評論では関連のあるテーマを新聞等で調べ、小説では作者の別作品を読んでもみる。
------	--

評価方法	考査による評価8割、平常の学習活動による評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	古典B	学 年	2	類 型	
単位数	3	教科書	精選 古典 B【改訂版】（三省堂）				
副教材	新訂総合国語便覧（第一学習社）、体系古典文法（数研出版）、精選漢文（尚文出版）、古文単語 330（いっずな書店）						

学習目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	古文「博雅の三位と鬼の笛」(十訓抄)	・文法事項に留意しつつ展開を適切に理解し、説話の世界を読み味わう。	☐ ☐ ☐
	漢文「梁上君子」(後漢書)	・漢文に親しみ、登場人物の考え方を理解する。	☐ ☐ ☐
	古文「ゆく河の流れ」(方丈記)	・筆者の無常観や人生観を読み取る。	☐ ☐ ☐
	古文「かぐや姫の昇天」(竹取物語)	・話の展開を理解し、登場人物の行動と心情を読み取る。	☐ ☐ ☐
	漢文「鴻門之会」(史記)	・話の展開を理解し、登場人物の行動と心情を読み取る。	☐ ☐ ☐
2 学 期	漢文「項王最期」(史記)	・中国の歴史が持つ面白さを味わう。	☐ ☐ ☐
	古文「北山の垣間見」(源氏物語)	・登場人物の心情を読み取り、王朝物語の特徴を理解する。	☐ ☐ ☐
	漢文「漁父辞」(古文真宝)	・文章に込められた思想や主張を読み取る。	☐ ☐ ☐
	古文「花山院の出家」(大鏡)	・敬語法を理解し、人物の境遇や心情を理解する。	☐ ☐ ☐
	古文「源氏の五十余巻」(更級日記)	・平安女流日記文学の特徴を理解する。	☐ ☐ ☐
3 学 期	漢文「論語」	・儒家の思想を理解する。	☐ ☐ ☐
	漢文「不忍人之心」(孟子)	・「不忍人之心」とはどのような心かを理解する。	☐ ☐ ☐
	漢文「人之性悪」(荀子)	・荀子が「人之性悪」と考える理由を理解する。	☐ ☐ ☐
	古文「能登殿の最期」(平家物語)	・忠度の状況に対する俊成の心情を理解する。	☐ ☐ ☐
	漢文「小国寡民」(老子)	・道家の思想を理解する。	☐ ☐ ☐
	漢文「曳尾於塗中」(莊子)	・莊子が理想とする生き方について話し合う。	☐ ☐ ☐
	漢文 日本の漢詩文	・漢詩文の決まりと詩情を理解する。	☐ ☐ ☐
		・日本文化と中国文化の関係を考える。	☐ ☐ ☐

学習方法	予習として、音読、本文の書き写し、辞書や文法書を用いての現代語訳に取り組む。脚問と学習の手引きを解いておく。授業後に再び音読し、理解不足や未定着の事項を復習する。
------	---

評価方法	考查による評価8割、平常の学習活動による評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	世界史 A	学 年	2	類 型	文・理
単位数	2	教科書	世界史 A（実教出版）				
副教材	アカデミア世界史 世界史 A《新訂版》演習ノート						

学習目標	1. 世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を養う。 2. 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史とも関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培う。 3. 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 4. 現代社会が直面する諸課題について、主体的な追究を通して認識を深めさせる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	1章 ユーラシア諸文明の特質	・ユーラシア諸文明の形成過程	☐ ☐ ☐
	2章 ユーラシアの交流		
	3章 一体化に向かう世界	・世界の一体化	☐ ☐ ☐
	4章 アジアの繁栄と世界	・ルネサンスと宗教改革	☐ ☐ ☐
	5章 19世紀の世界の一体化と日本	・ヨーロッパの主権国家体制	☐ ☐ ☐
2 学 期		・世界経済体制の形成	☐ ☐ ☐
		・産業革命と工業化社会	☐ ☐ ☐
		・アメリカ独立戦争	☐ ☐ ☐
		・フランス革命とナポレオン戦争	☐ ☐ ☐
	5章 19世紀の世界の一体化と日本	・ウィーン体制とその崩壊	☐ ☐ ☐
3 学 期		・ヨーロッパ国民国家の発展	☐ ☐ ☐
		・アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動	☐ ☐ ☐
		・東アジアの変容と日本の近代化	☐ ☐ ☐
	6章 2つの世界大戦	・激変する社会と帝国主義	☐ ☐ ☐
		・第一次世界大戦とロシア革命	☐ ☐ ☐
3 学 期	6章 2つの世界大戦	・戦間期のヨーロッパとアメリカ	☐ ☐ ☐
		・民族運動の高まり	☐ ☐ ☐
		・第二次世界大戦	☐ ☐ ☐
	7章 第二次世界大戦後の世界	・第二次世界大戦後の展開	☐ ☐ ☐
	8章 現代の世界		

学習方法	歴史事象を丸暗記するのではなく、因果関係を考察し論理的に考察すること。
------	-------------------------------------

評価方法	考查評価およそ8割・平常評価およそ2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	日本史 A	学 年	2	類 型	文・理
単位数	2	教科書	現代の日本史 A（山川出版社）				
副教材	新詳日本史（浜島書店） 新日本史研究ノート・標準編（啓隆社）						

学習目標	(1)わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる「日本人」としての資質を養う。 (2)歴史を考察する基本的な方法を理解するとともに、主題を設定して追求する学習、地域社会にかかわる学習を通して、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身につける。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	第1章 開国と維新	・開国とその影響 ・幕末の動乱と江戸幕府の崩壊 ・明治新政府の政策と近代化 ・明治初期の外交	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第2章 近代国家の形成と発展	・自由民権運動の展開 ・憲法制定と帝国議会の開設 ・条約改正問題 ・日清・日露戦争 ・韓国併合	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第3章 産業化の推進と国民生活の変化	・藩閥と政党の対立と協力 ・産業革命と資本主義 ・社会問題の発生と社会主義思想 ・国民文化の形成	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	・第一次世界大戦と世界の変容 ・大正デモクラシーと政党政治 ・協調外交の展開 ・都市化と大衆文化	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第5章 第二次世界大戦と日本	・恐慌の時代 ・協調外交の挫折 ・満州事変と軍部の台頭 ・日中戦争の泥沼化から日米対立へ	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	第5章 第二次世界大戦と日本	・日中戦争と日米対立 ・第二次世界大戦	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第6章 占領下の日本	・占領政策と独立の回復	☐ ☐ ☐
	第7章 日本の自立と経済成長	・日米安保と55年体制 ・高度経済成長の光と影	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第8章 現代の世界と日本	・激動する世界と日本	☐ ☐ ☐

学習方法	歴史事象を丸暗記するのではなく、因果関係を考察し論理的に考察すること。
------	-------------------------------------

評価方法	考查評価7～8割、平常評価2～3割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理 A	学 年	2	類 型	文・理
単位数	2	教科書	地理 A（第一学習社） 新詳高等地図（帝国書院）				
副教材	地理 A ノート（教科書準拠、第一学習社）最新地理図表 GEO（第一学習社）						

学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1編 1章 地球儀や地図で とらえる現代世界	・世界地図の図法の違い、時差の計算 ・国家の3要素、領土問題 ・国際組織と国家結合、貿易、交通通信、国際移動	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	2章 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	・世界的視野から見た地形、さまざまな地形と生活 ・世界的視野から見た気候、世界の気候と生活 ・世界の民族・宗教と生活・文化、産業の地域性	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	・東アジアの暮らしを学ぶ ・東南アジアの暮らしを学ぶ ・南アジアの暮らしを学ぶ ・北アフリカ、西アジア、中央アジアの暮らしを学ぶ ・中南アフリカの暮らしを学ぶ ・ヨーロッパの暮らしを学ぶ ・ロシアと周辺諸国の暮らしを学ぶ ・北アメリカの暮らしを学ぶ ・中央・南アメリカの暮らしを学ぶ ・オセアニアの暮らしを学ぶ	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第2編 生活圏の諸課題の地理的考察		
	1章 日常生活と結びついた地図	・地図と生活、地図の読みこなし ・地図表現、地形図の活用	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	2章 自然環境と防災	・日本の自然と生活、自然災害に備えた暮らし	☐ ☐ ☐
	3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	・地域調査、	☐ ☐ ☐
3 学 期	第1編 4章 私たちが直面する地球的課題	・地球的課題、人口問題、食料問題 ・都市・居住問題 ・資源・エネルギー問題、地球環境問題、国際協力	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	日頃からニュース等を通じて地理的事象に対する理解を深める努力をしておくこと。
------	--

評価方法	考査評価7～8割、平常評価2～3割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	公民	科 目	政治経済	学 年	2	類 型	文系
単位数	2	教科書	「高等学校 改訂版 政治経済」(第一学習社)				
副教材	「最新政治・経済資料集2021」(第一学習社)						

学習目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法	政治の機能と法、人権保障と法の支配、議会制民主主義と世界の政治体制、日本国憲法の基本原理、平和主義、基本的人権、国会・内閣・裁判所、地方自治、政党政治、選挙制度、世論	☐ ☐ ☐
	第2章 現代の国際政治と日本	国際社会と法、国際連合、国際政治の動向、国際紛争と難民問題、軍縮、日本の外交と国際平和へ役割	☐ ☐ ☐
2 学 期	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質	経済主体・市場経済の機能と限界経済成長と景気変動・物価の動き・金融・財政・日本経済史	☐ ☐ ☐
	第2章 国民経済と国際経済	国際経済のしくみ、国際協調と国際経済機関の役割、地域的経済統合、グローバル化する経済、南北問題	☐ ☐ ☐
3 学 期	第3編 現代社会の諸課題	中小企業、農業の現状と課題、消費者問題、労働問題、社会保障制度の充実、現代日本の政治や経済の諸課題、国際社会の政治や経済の諸課題	☐ ☐ ☐

学習方法	①日頃から新聞やニュース等を見て、社会的な出来事に関心を持つ。 ②出来事の原因と結果、その後の影響を関連付けて理解する。 ③教科書・資料集の基本的な事項・語句を確実に覚える。
------	---

評価方法	①学期成績は、中間・期末考査及び実力考査等の成績をもとに、授業中の取組や課題の提出状況に応じて評価する。 ②学年成績は1～3学期までの評点を平均し、5段階で評価する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ	学 年	2	類 型	高進文系・中進文系(6組以外)
単位数	4	教科書	Mathematics 数学Ⅱ改訂版 (啓林館)				
副教材	アドバンス 改訂版 数学Ⅱ＋B (啓林館) リンク数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B受験編 (数研出版)						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第3章 三角関数	弧度法で表された角の三角関数の値を求められる。	☐ ☐ ☐
	三角関数	三角関数の相互関係を理解し、利用できる。	☐ ☐ ☐
	加法定理	加法定理を利用して、三角関数の値を求められる。	☐ ☐ ☐
	第4章 指数関数と対数関数	三角関数の合成を理解している。	☐ ☐ ☐
	指数関数	指数法則を利用した計算ができる。 指数方程式・不等式を解くことができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	対数関数	対数の性質に基づいた値の計算ができる。 対数方程式・不等式を解くことができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第5章 微分法と積分法		
	微分係数と導関数	導関数を利用して、接線を求められる。 導関数を利用して、極値を求め、グラフがかけられる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	関数の値の変化	不定積分・定積分の計算ができる。	☐ ☐ ☐
	積分法	直線や曲線で囲まれた部分の面積が求められる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	数学演習①	リンク数学演習の「approach」で基本事項の復習・定着を行う。	
		9 式と証明 10 複素数と方程式	☐ ☐ ☐
		11 図形と方程式 12 三角関数	☐ ☐ ☐
		13 指数関数と対数関数 14 微分法と積分法	☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に、練習問題に取り組むこと。復習にはアドバンス問題集を活用し、内容の定着を図ること。
------	---

評価方法	考查評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点、および5段階で評価する。平常評価は課題提出、小テスト、授業への取り組み等で行う。
------	---

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ	学 年	2	類 型	中進文系 6 組					
単位数	4	教科書	Mathematics 数学Ⅱ改訂版（啓林館）									
副教材	アドバンス 改訂版 数学Ⅱ＋B（啓林館）											
	リンク数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B受験編（数研出版）											

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	数学演習①	「A問題」で基本事項を身に付け、「B問題」で知識の定着を図る。 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数・対数関数 第6章 微分法と積分法	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	数学演習②	リンク数学演習の「approach」で基本事項の復習・定着を行い、「basic」「challenge」で知識の運用力を身に付ける。 9 式と証明 10 複素数と方程式 11 図形と方程式 12 三角関数	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	数学演習③	13 指数関数と対数関数 14 微分法と積分法 終了後は、数学Bの内容を行う。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。 手が見つからない、どのようなことを知っておかなくてはならないのか分からないということであれば、教科書に目を通し、必要な知識を確認することから始めること。 履修内容の定着のため、解けなかった問題は時間をかけ、繰り返し解答すること。
------	--

評価方法	考査評価 8 割、平常評価 2 割で総合的に評価し、最終的に 100 点法の評点、および 5 段階で評価する。平常評価は課題提出、小テスト、授業への取り組み等で行う。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ＋数学Ⅲ	学 年	2	類 型	高進理系
単位数	3＋1	教科書	Mathematics 数学Ⅱ改訂版（啓林館） Mathematics 数学Ⅲ改訂版（啓林館）				
副教材	アドバンス 改訂版 数学Ⅱ＋B（啓林館） アドバンス 改訂版 数学Ⅲ（啓林館）						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価		
			A	B	C
1 学 期	第3章 三角関数	弧度法で表された角の三角関数の値を求められる。	☐	☐	☐
	三角関数	三角関数の相互関係を理解し、利用できる。	☐	☐	☐
	加法定理	加法定理を利用して、三角関数の値を求められる。	☐	☐	☐
		三角関数の合成を理解している。	☐	☐	☐
	第4章 指数関数と対数関数	指数法則を利用した計算ができる。	☐	☐	☐
	指数関数	指数方程式・不等式を解くことができる。	☐	☐	☐
	対数関数	対数の性質に基づいた値の計算ができる。	☐	☐	☐
		対数方程式・不等式を解くことができる。	☐	☐	☐
2 学 期	第5章 微分法と積分法	導関数を利用して、接線を求められる。	☐	☐	☐
	微分係数と導関数	導関数を利用して、極値を求め、グラフがかけられる。	☐	☐	☐
	関数の値の変化	不定積分・定積分の計算ができる。	☐	☐	☐
	積分法	直線や曲線で囲まれた部分の面積が求められる。	☐	☐	☐
3 学 期	第1章 複素数平面	複素数の複素数平面における図形的意味を理解する。	☐	☐	☐
		極形式とその乗法と除法の図形的意味を理解する。	☐	☐	☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に、練習問題に取り組むこと。復習にはアドバンス問題集を活用し、内容の定着を図ること。
------	---

評価方法	考査評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点、および5段階で評価する。平常評価は課題提出、小テスト、授業への取り組み等で行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ＋数学Ⅲ	学 年	2	類 型	中進理系
単位数	2＋2	教科書	Mathematics 数学Ⅱ改訂版（啓林館） Mathematics 数学Ⅲ改訂版（啓林館）				
副教材	アドバンス 改訂版 数学Ⅱ＋B（啓林館）						
	アドバンス 改訂版 数学Ⅲ（啓林館）						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	数学Ⅱ演習①	「確認問題」で基本事項を身に付ける。	☐ ☐ ☐
		「A問題」で知識の定着を図る。	☐ ☐ ☐
	第2章 平面上の曲線	x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を考察することができる。	☐ ☐ ☐
	第3章 数列の極限	無限級数の収束・発散を、部分和の極限を調べられる。	☐ ☐ ☐
	第4章 関数とその極限	簡単な分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解する。	☐ ☐ ☐
2 学 期		合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求める。	☐ ☐ ☐
	数学Ⅱ演習②	式を適切に変形し、関数の極限を求められる。	☐ ☐ ☐
		三角関数を含む様々な関数の極限值を求められる。	☐ ☐ ☐
		様々な関数の連続、不連続を考察する。	☐ ☐ ☐
		「B問題」で知識の運用力を身に付ける。	☐ ☐ ☐
	第5章 微分法	積、商の導関数、合成・逆関数の微分法を理解する。	☐ ☐ ☐
		種々の関数の導関数を計算できる。	☐ ☐ ☐
3 学 期		いろいろな曲線の接線の方程式を求められる。	☐ ☐ ☐
		関数の増減、極大・極小、グラフの凹凸を調べる。	☐ ☐ ☐
	第6章 積分法	置換積分や部分積分を用い、不定積分を計算できる。	☐ ☐ ☐
		面積・体積を定積分で表し、求められる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	第1章 複素数平面	複素数の複素数平面における図形的意味を理解する。	☐ ☐ ☐
		極形式とその乗法と除法の図形的意味を理解する。	☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に、練習問題に取り組むこと。復習にはアドバンス問題集を活用し、内容の定着を図ること。
------	---

評価方法	考查評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点、および5段階で評価する。平常評価は課題提出、小テスト、授業への取り組み等で行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学B	学 年	2	類 型	全クラス
単位数	2	教科書	Mathematics 数学B改訂版（啓林館）				
副教材	アドバンス 改訂版 数学Ⅱ＋B（啓林館）						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 数列 等差数列と等比数列 いろいろな数列 数学的帰納法	等差・等比数列の一般項、和の公式を理解している。 記号 Σ の意味と性質を理解している。 階差数列、和 S_n から一般項が求められる。 初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 数学的帰納法を用いた証明ができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	第2章 平面上のベクトル ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	ベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。 内積を求めることができる。 ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。 位置ベクトルを定めて、図形を考察できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	第3章 空間座標とベクトル	空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。	☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に、練習問題に取り組むこと。復習にはアドバンス問題集を活用し、内容の定着を図ること。
------	---

評価方法	考查評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点、および5段階で評価する。平常評価は課題提出、小テスト、授業への取り組み等で行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物	学 年	2	類 型	文系
単位数	2	教科書	数研出版「改訂版 生物基礎」、「改訂版 生物」				
副教材	第一学習社スクエア最新図説生物、生物基礎研究ノート、数研出版リト [®] Light ノート生物						

学習目標	生物に関わるさまざまな現象について理解するとともに、科学的にもものの見方や考え方を身につける。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第5章 生態系とその保全	・生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。	☐ ☐ ☐
	1. 生態系とその成り立ち	・生態系はそのバランスが保たれていること、人間の活動が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解する。	☐ ☐ ☐
	2. 物質循環とエネルギーの流れ		
	3. 生態系のバランスと保全		
2 学 期	第1章 細胞と分子	・細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。	☐ ☐ ☐
	第2章 代謝	・呼吸によって有機物からエネルギーが取り出される仕組みを理解する。	☐ ☐ ☐
	(呼吸と発酵まで)		
3 学 期	第2章 代謝	・光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられる仕組みを理解する。	☐ ☐ ☐
	(光合成から)		
	第3章 遺伝情報の発現	・窒素同化について理解すること。	☐ ☐ ☐
	(遺伝情報の発現調節まで)	・DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解する。	☐ ☐ ☐
3 学 期	第3章 遺伝情報の発現	・遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。	☐ ☐ ☐
	(バイオテクノロジーから)	・減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的な組合せが生じることを理解する。	☐ ☐ ☐
	第4章 生殖と発生	・遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。	☐ ☐ ☐
	(遺伝子の多様な組み合わせまで)		

学習方法	①さまざまな用語を他者に説明できる。②生命現象のしくみを文章で説明できる。 この2点を到達目標として授業に臨み、家庭学習に取り組む。
------	---

評価方法	①定期考査（課題考査も含む） ②課題 ③授業への取り組み姿勢 この3点を総合的に判断し、学期ごとに100点満点で算出する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	地学	科 目	地学基礎	学 年	2	類 型	文系
単位数	2	教科書	啓林館 地学基礎改訂版				
副教材	スクエア最新図説地学九訂版、地学基礎研究ノート						

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	(1) 宇宙における地球 ○惑星としての地球	・地球の形と大きさについて理解する。	☐ ☐ ☐
	・地球の形と大きさ	・地球内部の層構造とその状態を理解する。	☐ ☐ ☐
	・地球の内部の層構造		
	(2) 変動する地球 ○活動する地球	・プレートの分布と運動およびプレート運動に伴う大地形の形成について理解する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	・プレートの運動	・火山活動と地震の発生の仕組みについて理解する。	☐ ☐ ☐
	・火山活動と地震		
	○移り変わる地球	・地層が形成される仕組みと地質構造について理解する。	☐ ☐ ☐
	・地層の形成と地質構造	・古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。	☐ ☐ ☐
3 学 期	・古生物の変遷と地球環境		
	○大気と海洋	・大気の構造と地球全体の熱収支について理解する。	☐ ☐ ☐
4 学 期	・地球の熱収支		

学習方法	教科書を中心に授業を進めていきます。教科書の太字について説明できるような学習を行うこと。図の読み方を理解したうえで説明ができるようになること。
------	---

評価方法	考查評価7～9割（定期考查・課題考查），平常点評価1～3割（課題，提出物，授業態度等）で総合的に評価し，100点満点で評点を算出するとともに5段階で評定を決定する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	物 理	学 年	2	類 型	理系
単位数	3	教科書	考える物理基礎、総合物理 1（啓林館）				
副教材	リードα物理基礎・物理（数研出版）、物理研究ノート（博洋社）、図録（数研出版）						

学習目標	・物理的な事物・現象に関する観察・実験などを通して、探究する能力や態度を高める ・日常生活との関わりについて考察し、自然に対する見方や考え方を培い、論理的思考力や課題解決能力を養う
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	[考える物理基礎] 第3部 波 ○音	◎音波の性質や弦・気柱の固有振動について理解する	☐ ☐ ☐
	[総合物理1] 第1部 様々な運動 ○物体の運動 ○剛体のつり合い	◎放物運動等の2次元運動（平面運動）を理解する ◎剛体のつり合いの条件や重心について学び、生活との関連や、利用方法について理解する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	○運動量と力積	◎運動量や力積について学び、様々な運動を物理学的に解釈する	☐ ☐ ☐
	○円運動と単振動 ○万有引力	◎円運動や単振動などの周期的な運動を理解する ◎万有引力やケプラーの法則について学習し、惑星や探査機の運動を理解する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	第2部 熱 ○気体分子の運動	◎気体分子運動論や様々な法則について学び、気体の状態変化やその利用について理解する	☐ ☐ ☐
	第3部 波 ○波の性質	◎波の性質・現象をグラフ化・数式化する方法を学び、波に関連した様々な現象を理解する	☐ ☐ ☐
	○音 ○光	◎音の性質やドップラー効果について理解する ◎光の性質やレンズ・鏡、光の干渉について学び、生活との関連や、光の利用について理解する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期			

学習方法	授業を大事にし、物理的な事物・現象に対する概念や法則を暗記するのではなく、理解することに重点を置く。また、疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと、毎時間後の復習を徹底し、理解を深める努力をすること。理解をする上で計算力は必須なので、複雑な計算も必ず自分の手で行うこと。
------	---

評価方法	考查評価7～8割（定期考查・課題考查）、平常点評価2～3割（課題、提出物、授業態度等）で総合的に評価し、100点満点で評点を算出するとともに5段階で評定を決定する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	化学基礎（前期４） 化学（後期４）	学 年	２年	類 型	理系
単位数	４	教科書	改訂版化学基礎（数研出版） 改訂版化学（数研出版）				
副教材	ニューステップアップ化学基礎（東京書籍）、ニューステップアップ化学（東京書籍） サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）						

学習目標	・基礎的な知識の定着の定着を図る。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、自然を科学的に観ることができる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	化学基礎		
	第1章 物質の構成	・身の回りの化学物質について理解する。	☐ ☐ ☐
	第2章 物質の構成粒子	・共通した要素や、個々の相違点を調べ、追求する。	☐ ☐ ☐
	第3章 粒子の結合	・原子やイオンの構造と特性を理解する。	☐ ☐ ☐
	第1章 物質と化学反応式	・粒子の結合と物質の特性を理解する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	第2章 酸と塩基の反応	・グラフやデータから結果を考察できる。	☐ ☐ ☐
	第3章 酸化還元反応	・酸化数と酸化・還元を統一的に考え、その量的関係について理解する。	☐ ☐ ☐
	化学		
	第1章 粒子の結合と結晶の構造	・元素と粒子の関連性と結合について理解する。	☐ ☐ ☐
	第2章 物質の三態と状態変化	・それぞれの結合と働く力を理解する。	☐ ☐ ☐
3 学 期	第3章 気体	・粒子の熱運動と物質の関連性を理解する。	☐ ☐ ☐
	第4章 溶液	・気体の性質と、各法則について理解する。	☐ ☐ ☐
	第1章 化学反応とエネルギー	・化学反応とエネルギーの関係について理解する。	☐ ☐ ☐
	第2章 電池と電気分解	・電池・電気分解を理解し、電気量と物質量の関係を理解する。	☐ ☐ ☐
	第3章 化学反応の早さとしくみ	・化学反応の原理を理解し、その量的関係と時間との関連を理解する。	☐ ☐ ☐
	第4章 化学平衡	・化学平衡の概念を理解することができる。	☐ ☐ ☐

学習方法	教科書を中心に、プリントも用いて学習します。予習、復習は必ず行って下さい。 問題演習では、プリントと問題集を適宜利用します。
------	---

評価方法	各考査の成績と平常点を考慮して、各学期100点満点で評価します。
------	----------------------------------

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物	学 年	2	類 型	理系
単位数	3	教科書	数研出版「改訂版 生物基礎」、「改訂版 生物」				
副教材	第一学習社スクエア最新図説生物、生物基礎研究ノート、数研出版リード ^α 生物基礎＋生物						

学習目標	生物に関わるさまざまな現象について理解するとともに、科学的にもものの見方や考え方を身につける。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第5章 生態系とその保全 1. 生態系とその成り立ち 2. 物質循環と エネルギーの流れ 3. 生態系のバランス と保全	・生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。 ・生態系はそのバランスが保たれていること、人間の活動が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第一編 生命現象と物質	・細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 ・呼吸によって有機物からエネルギーが取り出される仕組みを理解する。 ・光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられる仕組みを理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第一編 生命現象と物質 第二編 遺伝子の働き	・窒素同化について理解すること。 ・DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解する。 ・遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第三編 生殖と発生	・配偶子の種類、減数分裂のしくみを理解する。 ・遺伝の仕組みを理解し、連鎖や組換えの仕組みを理解する。	☐ ☐ ☐

学習方法	①さまざまな用語を他者に説明できる。②生命現象のしくみを文章で説明できる。 この2点を到達目標として授業に臨み、家庭学習に取り組む。
------	---

評価方法	①定期考査（課題考査も含む） ②課題 ③授業への取り組み姿勢 この3点を総合的に判断し、学期ごとに100点満点で算出する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	体育	学 年	2	類 型	
単位数	3	教科書	最新高等保健体育				
副教材							

学習目標	心身の発達や生活の特性に基づき適切な体力と精神の発達を高め、しかも現在及び将来の生活に活用できる運動能力や技能を身につける。運動を仲間と共に親しみ、協力し合い、安全で安心な社会づくりに貢献できる資質や態度を身に付ける。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	運動スポーツの学び方	・運動処方を理解し、実践する。	☐ ☐ ☐
	体づくり運動 体力を高める運動	・自己の体に関心を持ち、自己の体力に応じた課題をもって運動を行い、体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる。	☐ ☐ ☐
	武道（柔道・剣道）	・礼儀・作法や基本技術の習得。試合をとして相手を尊重する態度を育てる。相手の多彩な動きに対応しながら、素早く動いて攻防を展開することができる。	☐ ☐ ☐
	水泳（クロール）	・手の動作と呼吸のタイミング、また、手と足の供応動作などの技能を修得し、競泳ができるようにする。 ・50mを一つの泳法で泳ぎ切る事ができる。	☐ ☐ ☐
	ダンス	・音楽に合わせ、体を動かし、皆で力を合わせ協調的・集団的にテーマを表現する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	ダンス	・音楽に合わせ、体を動かし、皆で力を合わせ協調的・集団的にテーマを表現する。	☐ ☐ ☐
	球技 バスケット・バレー ハンドボール サッカー・ソフトボール	・練習や試合の企画運営をグループで主体的に活動する力を身につける。チーム内での自己の役割を考え、自ら体力、技術力、精神力の向上に向け積極的に行動する。	☐ ☐ ☐
	ダンス 創作ダンス	・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で対極の動きや空間の使い方で変化をつけて即興的に表現したり、皆で協力しイメージを強調した作品にまとめたりして踊る。	☐ ☐ ☐
	陸上競技 長距離走	・自己の能力に応じて、目標を設定し、長い距離をより速く走ることができる。 ・自ら意欲的に取り組み、体力・忍耐力を身に付ける。	☐ ☐ ☐
3 学 期	陸上競技 長距離走	・自己の能力に応じて、目標を設定し、長い距離をより速く走ることができる。 ・自ら意欲的に取り組み、体力・忍耐力を身に付ける。	☐ ☐ ☐
	運動スポーツの学び方	・自己の体力や技能・能力の課題を見つけ、体力向上の計画を立て、実践することができる。	☐ ☐ ☐
	球技 バスケット・バレー ハンドボール サッカー・ソフトボール	・練習や試合の企画運営をグループで主体的に活動する力を身につける。チーム内での自己の役割を考え、自ら体力、技術力、精神力の向上に向け積極的に行動する。	☐ ☐ ☐

学習方法	日頃から体調の管理を行いながら、授業に出席し、積極的に自己の課題（体力面・技能的・精神面）を改善・向上させていく。
------	---

評価方法	各運動種目の運動技能・記録計測の実技テスト8割程度 出席・授業態度2割程度
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	保健	学 年	2	類 型	
単位数	1	教科書	最新高等学校保健体育				
副教材	最新高等保健体育ノート						

学習目標	生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健医療制度や期間を適切に活用することが重要であることを理解する。社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解する。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	生涯を通じる健康 (1) 思春期と健康 (2) 性への関心・欲求と性行動 (3) 妊娠・出産と健康 (4) 避妊法と人工妊娠中絶 (5) 結婚生活と健康	・ 思春期における体の変化について説明できる。 ・ 思春期の心の発達にかかわる健康問題を説明できる。 ・ 性意識の男女差を説明できる。 ・ 性情報が性行動の選択に影響することを理解する。 ・ 妊娠出産の健康問題を説明できる。 ・ 家族計画の意義と適切な避妊方法、人工妊娠中絶について説明できる。 ・ 心身の発達と結婚生活の関係について、また、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動を説明できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	(6) 中高年期と健康 (7) 医薬品とその活用 (8) 医療サービスとその活用 (9) 保健サービスとその活用 (10) さまざまな保健活動 社会生活と健康 (1) 大気汚染と健康 (2) 水質汚濁、土壌汚染と健康 (3) 環境汚染を防ぐ取り組み	・ 老いに伴う心身の変化について説明できる。 ・ 中高年期を健やかに過ごすための取り組みを説明できる。 ・ 医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・ 医薬品の安全性を守る取組について説明できる。 ・ 医療機関の役割、医療サービスについて説明できる。 ・ 保健行政の役割、保健サービスの活用について説明できる。 ・ 民間機関・国際機関などの保健活動や対策について説明できる。 ・ 大気汚染の原因とその健康影響について説明できる。 ・ 地球規模の環境問題について説明できる。水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・ 環境汚染の特徴及びそれを防ぐ取り組みについて説明できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	(4) ごみの処理と上下水道の整備 (5) 食品の安全を守る活動 (6) 働くことと健康 (7) 働く人の健康づくり	・ ごみ処理の現状やその課題について説明できる。 ・ 安全で質の良い水を確保するための仕組みと課題を説明できる。 ・ 食品の安全のための取り組みについて説明できる。 ・ 働く人の健康問題の変化について理解する。労働災害の防ぎ方について説明することができる。 ・ 職場での健康増進対策、余暇の活用について説明できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	教科書の読み書き、板書の転記。図の読み取りや意見交換をして知識を深めていく。保健ノートの演習を行い、内容をまとめる。
------	--

評価方法	定期考査、保健ノート記入や授業の取り組み状況で評価する。
------	------------------------------

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	英語	科 目	コミュニケーション英語Ⅱ	学 年	2	類 型	
単位数	4	教科書	ELEMENTⅡ(啓林館)				
副教材	Smart Reader (IIZUNA SHOTEN)						

学習目標	様々な言語活動を通してまとめた英文の内容理解・構文理解を深め、自己表現活動につながる。
------	---

3

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	L1 Beyond Words L2 Stay Hungry, Stay Foolish L3 A Teenager To Change the World L4 Life in a Jar	・レッスン中の語彙・表現の理解。 ・重要構文を含む文の理解。 ・本文のアウトラインの理解。 ・段落やパートごとの要点の理解。 ・レッスン全体のリテリングができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	L5 Space Debris L6 Caddy for Life L7 iPS Cells L8 Selective Breeding	・レッスン中の語彙・表現の理解。 ・重要構文を含む文の理解。 ・本文のアウトラインの理解。 ・段落やパートごとの要点の理解。 ・レッスン全体のリテリングができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	L9 The Vancouver Asahi L10 Euglena Further Reading	・レッスン中の語彙・表現の理解。 ・重要構文を含む文の理解。 ・本文のアウトラインの理解。 ・段落やパートごとの要点の理解。 ・レッスン全体のリテリングができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	該当レッスンの読解ワークシートに各生徒が予習で取り組む。 予習した内容をベースにして授業で理解を深める。 即興的な自己表現も授業中に行う。
------	--

評価方法	・定期考査 ・小テスト ・予習・提出物の状況 ・パフォーマンステスト ※上記の項目を総合的に評価する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	英語	科 目	英語表現Ⅱ	学 年	2	類 型	
単位数	2	教科書	Be English Expression II (IIZUNA SHOTEN)				
副教材	システム英作文（桐原書店）						

学習目標	1年次に学習した基本的な例文や構文知識をもとに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝える能力を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	L1 時の表し方/L2 動詞と文の構造/L3 助動詞/L4 名詞と限定詞/L5 代名詞/L6 名詞句と名詞節/L7 形容詞/L8 形容詞句/L9 形容詞節（関係詞節）	・学んだ文法・表現を使って、文を書くことができる。 ・自分や与えられた課題について文章を書くことができる。 ・与えられた状況に置いて適切に話し、伝えることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	L10 副詞/L11 副詞句/L12 副詞節/L13 比較/L14 仮定法/L15 複文での動詞の使い方/L16 言う見る聞くの表現/L17 認識の表現/L18 許可提案勧誘依頼要望の表現/L19 存在や変化の表現/L20 使役の表現/L21 日本語とは違う表現方法	・学んだ文法・表現を使って、文を書くことができる。 ・自分や与えられた課題について文章を書くことができる。 ・与えられた状況において適切に話し、伝えることができる。 ・パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。 ・自らの意見を適切な表現を用いて伝えることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	システム英作文より ・無生物主語 ・関係詞 ・接続詞 ・時制 ・助動詞 ・仮定法 ・不定詞 ・動名詞 ・分詞 ・態	それぞれの文法項目の形式の理解。 それぞれの文法項目の意味の理解。 それぞれの文法項目の機能の理解。 基本的な表現の活用。 発展的な表現の理解。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	該当レッスンの演習問題に各生徒が予習で取り組む。 予習した内容をベースにして授業で解説を行う。 即興的な自己表現も授業中に行う。
評価方法	・定期考査 ・小テスト ・予習・提出物の状況 ・エッセイライティング(自由英作文) ※上記の項目を総合的に評価する。